

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び

II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成

III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成

V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 飯塚市立穂波東中学校 】

1 実践テーマ	☒ I ・ II ・ III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学 年 ・ 人 数)	本校中学部 全学年生徒 291名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ☒ ② 行事名 (文化発表会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	オリンピックの講演を通して、オリンピズムの教育的価値（努力の喜び・フェアプレイ・他者への尊敬・卓越性の追求・バランスのとれた身徳知）を知るとともに、スポーツへの関心を高める。
5 取組内容	○事前学習 保健体育科の授業で、オリンピックの成り立ち、国際大会の意義等の学習を行うとともに、フェンシングの基本ルールについて、学習をした。 また、各学年では人権学習と合わせて、パラリンピックのことを調べて人権作文を作成している。 ○実践内容 文化発表会の午後の部の催事として、本事業を行った。 前半は「フェンシング人生から学んだ大切なこと」と題して動画やスライドを用いて講演をしていただいた。 後半は実際のフェンシング用具を使用して、フェンシング体験活動を行った。 ○事後学習 文化発表会のまとめを行う際に、講演会についての感想を書く振り返り活動を行った。

	 
6 主な成果	○2年間続いているコロナ禍により、部活動や校外学習など、各活動が制限され、目標を持てなかったり、不安になる生徒が増えていたりした中、千田さん自身の体験をもとに希望を持つことの大切さや、中学生からでも世界を目指せるという言葉に、多くの生徒が驚いていた。講演会後の感想では、何事にもあきらめず、前向きに頑張りたいという意見が多く出ている。また、新しいことに挑戦してみたいという意見も多数見られ、学校生活や部活動などに活気が見られるようになった。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	○講演だけではなく、できる限り体験の要素を取り入れることを考え、フェンシング部のある福岡魁誠高校より、用具を借用し、6人の生徒が代表として試合を行った。事前学習で映像を見ていたが、実際に本物を目にする機会はなかなか得られないので、体験者だけでなく、見学の生徒にとっても良い機会となった。

8主な課題等	○依頼する際に必要な書類について、頻繁に連絡を取る必要があったので、もう少し手順と必要書類について、整理が必要である。 ○予算の内容について、出張旅費や宿泊費も内包していることが、事業を進めている途中で分かった。 ○用具をそろえることが大変である。代替用具として、スマートフェンシングが開発されているが、レンタル料が30000円～50000円かかるため、予算が逼迫する。
9来年度以降の実施予定	○フェンシング以外にも、地元にはプロスポーツ選手、ゴールボールの選手、ブラインドマラソンの選手など、人材が豊富なので、活用して生徒たちに良い体験の場を提供できるようにしていきたい。 ○また、飯塚市は車いすテニスの国際大会開催地でもあるので、大会の紹介やボランティアの紹介を行い、スポーツへの多様な関わり方を学ばせたい。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 - II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 - III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 - IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 - V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 飯塚市立穂波東中学校 】

1 実践テーマ	I ・ II III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学 年 ・ 人 数)	本校中学部 全学年生徒 291名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (学級活動 「パラリンピックについて知ろう」) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	パラリンピックの意義や出場種目、出場選手の努力や活躍の様子を調べ、人権作文を作成することを通して、共生社会についての理解と関心を高める。
5 取組内容	○事前学習 9月6日、9月7日に、パラリンピックについてタブレットや新聞を使って、調べ学習を行った。 ○実践内容 9月8日に、調べたことをまとめた。 ○事後学習 学年通信等で、ピックアップした作文を紹介し、共生社会への理解と関心を喚起した。
6 主な成果	○今まで関心が薄かったパラスポーツへの関心が高まり、「自分もしてみたい」「面白そう」などの感想が聞かれた。また、パラリンピアン活躍を目の当たりにし、「すごい」「どうやってるの」といった賞賛や感心の声が聞かれた。その他、バリアフリー化について触れた感想も多く見られ、共生社会への関心が高まった様子が見られた。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	○生徒に配布されているタブレットを使用し、インターネットで調べ学習を進めた。また、新聞記事もタブレットで撮影し、より多くの生徒が情報を共有することができるようになった。
8主な課題等	○夏休み後半の登校日が緊急事態宣言で休校となり、実際にパラリンピックの様子を視聴する計画が流れてしまい、取組期間に余裕がとれなかった。
9来年度以降の実施予定	○学級活動に限らず、道徳の教材としても取り上げ、パラスポーツを通して共生社会への理解を深められるようにしたい。 ○また、飯塚市は単いすテニスの国際大会開催地でもあるので、大会の紹介やボランティアの紹介を行い、スポーツへの多様な関わり方を学ばせたい。